

E-1 乳幼児の成長過程における自己形成

薫英女短大家政 土山 忠子

1. 本研究は、人間の人格的成長理論として社会性、伝達性、変容性の三段階に分け、それぞれの性格を明確にし、乳幼児期にどのようにこの三つの性格が現われ、未熟なものから成熟した人格へと成長していくか。この成長理論を実証的に基礎づけて、乳幼児期の意義と重要性を確認したい。

2. 方法は、最近の心理学、教育学、生理学、生物学等の成果を利用して論述し、成長理論が学問的に妥当性をもつものであることを帰納的に解明する。

3. 成果—人格的成長は、人格と人格の間にある相互関係性と相互低用性により、つぎの三段階の過程を経てとげられる。

A 社会性—他者依存的な被慮性と、自己提供的な愛他性の二つの相反した形で現われ、この二つの均衡の度合が変化していく。

B 伝達性—非主体的な感受性と、自覚的な応答性の二つの極があり、依存性の中から、選択性と意志的決断とが発生する。

C 変容性—同化性と統合性の二つの極の間において存在する。同化性の中から、それとは質を異にした統合性が発生し、統合性の力は年齢と経験の程度に応じて強化され、両者の比重が同化性よりも統合性の方に移ったときに、一人の人は成熟するのである。